



日本骨髄バンクの現状（平成 28 年 3 月末現在）

	2 月	3 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2, 284	2, 103	458, 352	663, 775
患者登録者数	255	261	3, 242	47, 592
移植例数	99	96	—	19, 297

■3 月年代別ドナー登録者数（現在数）

10 代	2, 779 人
20 代	69, 926 人
30 代	141, 443 人
40 代	191, 650 人
50 代	52, 554 人

■3 月の 20 歳未満の登録者 139 人

■3 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／564 人、献血併行型集団登録会／1, 440 人、集団登録会／30 人
その他／69 人

■3 月末までの末梢血幹細胞移植（PBSCT）累計数：158 件 注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

■骨髄バンクを介して 2 回提供された方（累計数）1, 292 人 ■DLI（ドナーリンパ球輸注）療法の実施件数（累計数）711 件

■国際協力（2016 年 1 月～2016 年 3 月）

<海外ドナー⇒国内患者> 移植数 0 件：累計移植数：184 件

<国内ドナー⇒海外患者> 提供数 4 件：KMDP 4 件：累計提供数：258 件

1 平成 27 年度の移植数 1, 234 件、ドナー登録者数 28, 690 人

平成 27 年度の移植数は 1, 234 件で、前年度（1, 331 件）より 97 件減少しました。内訳は〔国内ドナー ⇒ 国内患者〕が 1, 216 件、海外バンクを介した〔海外ドナー ⇒ 国内患者〕が 2 件、〔国内ドナー ⇒ 海外患者〕が 16 件でした。末梢血幹細胞移植は 58 件で、前年度に比べ 4 件減少しました。患者登録者数は前年度の 3, 072 人より 45 人多い 3, 117 人（国内 2, 269 人、海外 848 人）でした。

ドナー登録者数は、平成 28 年 3 月末現在 458, 352 人です。平成 27 年度の新規登録者数は 28, 690 人で、前年度比 2, 310 人増となりました。登録窓口別の内訳は、①献血併行型登録会が 20, 558 人（前年度比 2, 946 人増）、②日赤固定窓口（献血ルーム等）が 7, 144 人（前年度比 544 人減）、③集団登録会は 466 人（前年度比 88 人減）でした。

今後一人でも多くの患者さんに移植の機会を提供できるよう、一層のご協力をお願い申し上げます。

2 平成 28 年度事業計画・予算について

平成 28 年度の事業計画と予算が 3 月 14 日に開催された通常理事会で承認されました。本年度は、①コーディネートルールの抜本的見直しによる期間大幅短縮、②末梢血幹細胞移植における「凍結」の検討、③若年層を軸としたドナー登録拡大、④関連組織との連携強化と「造血幹細胞移植支援システム」構築への関与、⑤バンク設立 25 周年記念事業、の 5 項目に重点をおいて事業を進めます。

予算については移植件数が減少傾向にあるため厳しい状況が継続しますが、1 人でも多くの患者さんに移植の機会を提供できるよう、コーディネート期間の短縮化に注力しつつ、効率的な予算執行に努めます。

3 当法人の事務局人事について

3 月 31 日付で木村成雄事務局長が退職したことに伴い、4 月 1 日付で松園正人が事務局長に、五月女忠雄が総務部長にそれぞれ就任しました。

4 厚生労働科学研究事業（移植医療基盤整備研究分野）と当法人の連携

今年度、厚生労働科学研究事業のひとつとして、造血幹細胞移植分野で新たに「骨髄バンクコーディネータ期間の短縮とドナープールの質的向上による造血幹細胞移植の最適な機会提供に関する研究」（班長 福田隆浩先生 国立がん研究センター中央病院）が立ち上がりました。造血幹細胞の安定的・効率的で安全な供給体制を整えることを目的とし、主にコーディネータ期間の短縮と若年ドナーのリクルートが課題とされています。両方とも当法人にとって喫緊の課題であり、特にコーディネータ期間短縮は従来のコーディネータのあり方を抜本的に見直し、ひとりでも多くの患者さんに移植のチャンスを提供できるよう、昨年末に「期間短縮プロジェクト」を発足させたところですが、当法人は本研究と連携しこれらの課題に取り組んでまいります。

5 コーディネータ期間短縮の取り組み

今年度の事業計画には「コーディネータの抜本的な見直しによる期間の大幅短縮」が挙げられています。そこで、ドナーに対して確認検査時と最終同意面談時に 2 回行っている詳細な説明を 1 回にし、コーディネータフローを簡素化する試行方法について検討しています。また、家族同意のあり方について再検討しているところです。

今後、前述の福田班と連携して、関係者（採取担当医師、調整医師、コーディネーター、HCTC など）へのアンケートを実施する予定です。関係者の方々のご意見を踏まえて、慎重に検討を進めてまいります。

6 非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞採取施設・移植診療科の認定について

下記の施設が新たに非血縁者間骨髄採取施設・移植診療科として認定されました。これにより認定施設は 184 施設となりました。

◆非血縁者間骨髄採取施設・移植診療科

・採取施設	・移植診療科
地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立中央病院	同左 血液内科

以下の施設が新たに非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科として認定されました。これにより認定施設は 92 施設となりました。

◆非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科

・採取施設	・移植診療科
名古屋市立大学病院	同左 血液腫瘍内科

新規認定施設については、当法人ホームページ＞患者さんへ＞移植認定病院およびドナー登録されている方へ＞面談施設一覧でもご覧いただけます。

7 ドナー助成制度、新年度から 29 市区町で導入

平成 28 年 4 月から新たに 29 市区町で、骨髄バンクを通じて骨髄または末梢血幹細胞を提供したドナーのための助成制度がスタートしました。全国で 157 市町村となります。

また山形県、群馬県、茨城県、岐阜県、岡山県では県内市町村がドナー助成制度を導入した場合、その費用の半分以上を県が補助する制度がスタートしました。すでに導入している東京都、埼玉県、京都府を含めて全国で 8 都府県になり、更なる導入が期待されます。

助成内容は各自治体によって異なりますので、直接お問い合わせください（当法人ホームページに問い合わせ一覧を掲載しています）。

【新たに導入した自治体】

- 寒河江市、高島町、東根市、山形市（以上、山形県） ○大洗町、取手市、銚田市（以上、茨城県）
- 船橋市（千葉県） ○渋谷区、世田谷区、三鷹市、町田市（以上、東京都）
- 大垣市、岐阜市、神戸町、土岐市、養老町（以上、岐阜県）
- 宇治市、亀岡市、向日市、宮津市、与謝野町（以上、京都府） ○東かがわ市（香川県）
- 大木町、新宮町、みやま市、柳川市（以上、福岡県） ○えびの市、三股町（以上、宮崎県）

8 都内ドナー登録会会場、大学での開催を強化

年齢超過等によるドナー登録取消数は年間 2 万人を超えており、ドナー登録純増数は減少傾向にあります。この現状を踏まえ、若年層のドナー登録を推進するためにこれまでの登録会場を見直し、主に大学での開催を増やします。昨年 4 月の都内大学でのドナー登録会開催は 13 回でしたが、本年 4 月には 21 回の開催を予定しています。今後も若年層を軸としたリクルートを推進します。

9 骨髄バンク・さい帯血バンク広報誌「BANK！ BANK！」#2 発行

【骨髄バンク・さい帯血バンク】の理解を深めるための広報誌「BANK！ BANK！」#2（4 月号）が日本赤十字社から発行されました。下記ウェブサイトや SNS で公開するほか、献血ルームなどでは紙媒体で配布されます。紙媒体が必要な方は、日本赤十字社（TEL:03-3437-7205）へお問合せください。

掲載 URL: <http://www.bmdc.jrc.or.jp/info/2016/0415.html>
<https://www.facebook.com/bank.bank.jrc/>

10 当法人の会議等開催予定

◆会議の傍聴をご希望の方は、事前に当法人総務部までお申し込みください。

会議名	公開・非公開	開催予定
業務執行会議	公開・一部非公開	5月23日（月）17：30～廣瀬第2ビル地下会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。



11 平成 28 年度コーディネーター研修について<コーディネーターの方へ>

平成 28 年度の研修では、一人でも多くの患者さんに移植の機会を提供するため、コーディネート期間の短縮を図る取り組みをさらに推進します。昨年度は日常業務の中から選定後のドナー理由終了を減らすための取り組みを実施しました。今年度においても継続し、より実効性のある具体的な方策を取り入れることで期間短縮につなげていきます。

また、拠点病院と連携して、より円滑な造血幹細胞採取の受け入れを目指します。さらにブロック会議等で意見交換や情報共有を進め、関係者との連携を強化します。コーディネーターの方には別紙「平成 28 年度コーディネーター研修について」を同封しますので、ご参照ください。

12 過去の骨髄ドナーの死亡事例（追加）について<コーディネーターの方へ>

このたび、「ドナーのためのハンドブック」に掲載されている 4 例以外の骨髄ドナー死亡例（時期不明）1 例が 2009 年発表の論文に掲載されていることが判明しました。別紙をご確認いただき、ご対応ください。別紙：「過去の骨髄ドナーの死亡事例（追加）について」

13 ジカウイルス感染症の対応について

全米骨髄バンク（以下、NMDP）から、ジカウイルス感染症について、関係各国のバンクに対して基準が示され、対象者について対応することになりました。

○対象者：NMDP の患者に対するドナー

4 月 1 日以降、地区事務局がドナーの方へ、地区コーディネート開始時およびドナー選定時に質問による対応をしています。コーディネーターの対応は不要です。

14 大腿静脈アクセス（ドナーリンパ球採取）時に、破損穿刺針が体内に残存したため除去を要した事例について<採取責任医師の方へ>

ドナーリンパ球採血のため大腿静脈アクセスを施行したところ、穿刺針が破損し体内に残存、異物除去術を行い入院が必要となった事例が報告されました。本症例に関して、再発防止の観点から情報提供します。詳細は別紙をご確認ください。

別紙：「大腿静脈アクセス（ドナーリンパ球採取）時に、破損穿刺針が体内に残存したため除去を要した事例について」

15 骨髄液バッグのシーリングについて（注意喚起）<採取責任医師の方へ>

複数の認定施設から骨髄液バッグのシーリングの不備が指摘されたことを受け、当法人のドナー安全委員会で検討した結果、情報提供および対応についてお知らせすることとしました。別紙ご確認いただき、ご対応をお願いします。別紙：「骨髄液バッグのシーリングについて（注意喚起）」

16 テルモ BCT 社製スペクトラ・オプティアを用いて骨髄液の血球・血漿除去処理中に発生した回路の不具合事例について<連絡責任医師の方へ>

この度、テルモ BCT 社製スペクトラ・オプティアを用いてドナー骨髄の血球・血漿除去を開始したところ不具合が発生し、ベアリング部のメッシュが破損していた事例が報告されました。

詳細については、当法人ホームページ（医師宛通知文）からご確認ください。

17 検体保存事業に関する変更について<コーディネーターの方へ>

平成 28 年度より、検体保存施設が東海大学から事業主体である日本赤十字社に変更されたことに伴い、対応方法が変更になりました。つきましては、別紙のとおりご対応いただきますようお願いします。

別紙：「検体保存事業に関する変更について」

18 連絡事項**◆ゴールデンウィーク期間の確認検査・再検査の実施と SRL 予約について****○確認検査**

ドナーがすでに HLA (DNA) の情報を持っているか否かにより、対応が異なります。

① 一般血液検査および HLA ビーズ法の場合

4/27 (水)、4/28 (木)、5/2 (月) は実施不可

② 一般血液検査のみ・確認検査再検査

カレンダーどおり実施可能。

○SRL の予約期限

5/6 (金)、5/9 (月)、5/10 (火)、5/11 (水) の予約は 4/26 (火) 14:00 まで

◆各種データについて

今号では、マンスリーJMDP に毎号掲載している「コーディネート件数 (月次実績)」の他に、「コーディネート件数」「コーディネート期間」「終了理由別終了件数」(いずれも 2015 年度実績) を同封します。

◆改訂版チャンス送付について (コーディネーターの方へ)

前号でお知らせした改訂版「チャンス」を同封します。

◆返信用紙 V 【問診票】 の記載順序変更について

「15. ピアス・タトゥーについてお伺いします」の①と②の質問について次のように順番を変更します。

タイトル:

旧: 「15. ピアス・タトゥーについてお伺いします」

新: 「15. タトゥー・ピアスについてお伺いします」

質問事項: ①と②の順番を変更します。

旧: ①ピアスをしたことがある。

②過去にタトゥー(いれずみ・アートメイク含む)をした。

新: ①過去にタトゥー(いれずみ・アートメイク含む)をした。

②ピアスをしたことがある。

理由: 未記入防止のため。